鞍手町再発見!!

華丸・大吉のなんしようと？

4月9日、テレビ西日本で放送

桜の名所、「鞍手公園」
炭鉱では、「山の神」

3月19日、『博多華丸・大吉さん』が鞍手町に「華丸・大吉のなんしようと?」の番組収録にやってきました。今回その収録に広報担当も同行することになり、町のいいところを再発見する特集を組むことにしました。

まずは、鞍手公園。満開の桜を目当てに出かけた人も多いかと思います。昔は「山の神」といわれていた所です。なぜ、「山の神」と言われていたのか、その由来を紹介します。

鞍手町は、江戸時代より昭和40年代まで約三百年にわたる石炭の歴史があります。大正時代には、三菱新入炭鉱の七坑（中山西区）、六坑（中山南区）が開業し、炭坑の町として栄えました。炭鉱労働者にとって災害は生死の分かれ目。炭坑のある所には「山の神」（炭坑の神様）が祀（まつ）られ、坑内の安全が祈られました。現在の鞍手公園がある場所には祠（ほこら）や鳥居などがありました。また、鞍手公園からの風景は中山地区の景観が見渡せるポイントとなっています。ぜひ、この機会にもう一度行ってみてはいかがでしょうか。

ここに町の歴史あり

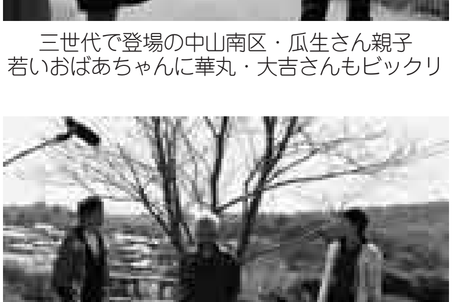
町の歴史を知るには、歴史民俗資料館と石炭資料展示場があります。

資料館のテーマは『観る、触れる、体感する』。縄文時代から江戸時代までの生活がわかる資料が展示されています。なかでも、八尋の銀冠塚古墳から出土した銀製の冠は全国で4例の古墳からしか発見されていません。華丸さんと大吉さんは町で出土した縄文時代の人骨に「本物です

第一町人発見!!　中山南区区長の柴田正治さん

ぶらり散策
民俗・歴史
コラボ

三世代で登場の中山南区・瓜生さん親子
若いおばあちゃんに華丸・大吉さんもビックリ



華丸・大吉さんから「ものしり博士」と
命名された柴田さんと鞍手公園まで桜見物

か？これ〜」と大興奮。もちろん本物です。また、明治・大正・昭和時代の人々の暮らしをテーマにした民俗のコーナーや国学者の伊藤常足に関する資料などの展示もあります。

石炭資料展示場では、鞍手の『炭坑のようすと暮らし』をテーマとし、日本の近代産業を支えた石炭の歴史と文化を紹介しています。そこには、手掘りの採炭や近代炭坑の採炭現場の様子がわかるレプリカが展示され、その当時が体感できます。資料館・石炭展示場を一度ご覧になってみてはいかがでしょうか。それぞれの時代に豊かな歴史を刻んできた鞍手町。なつかしい風景に出会える散策になるかもしれません。

まちの宝は「人と自然と歴史」

今回の取材で、華丸さんと大吉さんは、「のどかですな〜」という言葉を連発していました。この言葉どおり、鞍手町は、自然があふれる町。その自然がおだやかな人間性を育んでくれるのかもしれません。今回の取材で出会った人たちは、顔見知りの人から初めて会った人まで多彩な顔ぶれでしたが、共通していることは皆さんの人柄のよさです。

『人材は宝』といいますが、鞍手町のみなさんは、一人ひとりが大きな財産です。自然と人とのふれあい、そして町の歴史をこれからも大切にしていきたいですね。さて、あなたはどんな鞍手町を再発見できそうですか。

グリーンコープ生協では、町のおすすめスポットを尋ね、歴史民俗資料館を紹介してもらいました。

歴史民俗資料館へ立ち寄る途中、この春、小学校を卒業した子どもたちにも遭遇

町の歴史を知るには、歴史民俗資料館

ご夫婦クイズの舞台は大峯精肉店‼
肉食系ご主人に華丸・大吉さんもあ然

特

素敵な景色 たくさんの歴史 私たちの住む鞍手町を再発見してみませんか？

博多華丸・大吉さん

プロフィール●博多華丸・はかたはなまる（写真左）。昭和45年生まれ、福岡県福岡市出身。●博多大吉・はかただいきち（写真右）。昭和46年生まれ、福岡県古賀市出身。●福岡大学在学中に落語研究会に所属しコンビを結成。1990年に吉本興業福岡事務所からデビュー。2005年には東京本社へ移籍し全国デビューを果たす。2006年には華丸さんがＲ－１ぐらんぷりで児玉清さんのものまねネタ（ネタを考えたのは相方の大吉さん）で優勝。現在、テレビ、ラジオ、ＣＭなどで多数活躍中の漫才コンビ。

「華丸・大吉のなんしようと？」という番組をご存じですか。毎週金曜日午後7時29分からテレビ西日本で放送中の番組です。『博多華丸・大吉』のコンビで福岡県内の市町村をぶらり散策し、その土地の人たちとふれあうという番組です。

テレビ西日本
毎週金曜夜７時29分

スタッフの皆さんお疲れ様でした

4月9日（金）の放送を見逃した人は再放送（放送日未定）をご覧ください。